

「10年目のキャンドルナイト」 市長メッセージ

かけがえのない多くの命が失われ、計り知れない深い悲しみと甚大な被害をもたらした東日本大震災から10年の歳月が流れました。私たちの胸には、あの日のことが今なお強く刻み込まれています。大切な御家族や御親族、御友人を失われた方々のお気持ちを思うと、哀惜の念に堪えません。ここに改めて衷心より哀悼の意を捧げますとともに、被災された全ての方々に、心からお見舞い申し上げます。

東日本大震災は未曾有の惨禍をもたらし、私たちは、平穏な日常生活が一瞬で崩壊してしまうという現実をまざまざと見せつけられました。しかしながら、私たちは自らの責務として、災害から得られた教訓を活かしながら困難に立ち向かっていかななくてはなりません。幾度となく大きな困難に見舞われながらも、その度毎に勇気と希望をもって乗り越えてきた先人達に倣い、今を生きる私たちもまた、明日を生きる世代のためにも手を携えて前を向いて歩んでいかななくてはなりません。

被災地では、多くの方々の尽力により着実に復興が進展しています。昨年3月には、一昨年の三陸鉄道に続き常磐線が全線開通しました。令和3年度には三陸自動車道の全線開通も予定されていますし、防潮堤などの防災対策や住まいの再建、産業の再生も進んでいます。しかしその一方で、避難先で新しい人間関係が築けず孤立する被災者が増加するなどの課題も生じています。復興が、人と人とのつながりを大切にする「まちづくり」「地域づくり」に向けた新たな段階に進んでいく必要があると感じています。被災地で暮らす人も、懐かしい故郷に帰りたくても帰れない人も、すべての被災された皆様が、何処の地においても安心して、強く、しなやかに生活していけるよう、私たち酒田市民は今後とも、被災者の皆様お一人お一人が置かれた状況に寄り添いながら、物心両面の復興のために必要な支援に力を尽くします。そして、震災による大きな犠牲の下に得られた貴重な教訓を常に顧みながら、このような惨禍を二度と繰り返さないように英知を結集して防災対策を進めていくことを、ここに固くお誓いいたします。

亡くなられた方々の御霊の永遠に安らかならんことをお祈り申し上げますとともに、御遺族と被災者の皆様の平穏を心から祈念し、私からのメッセージとさせていただきます。

令和3年3月11日

酒田市長 丸山 至